

平成18年度冬作関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成18年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成19年9月12日(水)に東京ガーデンパレスにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者21名、委託関係者21名ほか、計74名の参集を得て、除草剤の作用性試験5薬剤

(14点)、適用性試験32薬剤(190点)、及び生育調節剤5薬剤(15点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成18年度 冬作関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 除草剤 (1)小麦

注)アンダーラインは拡大された部分を示す。また、薬剤名のアンダーラインは、初めて使用基準が作成されたことを示す。

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	判定	使用基準						継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	
1.ANK-553 細粒 ベンディメタリン 2% [BASF アグロ]	実 継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	6kg 5～6kg	全土壌 (砂土を除く)	北海道 東北以南	・カスノコグサ、ネズミムギ、 SU 抵抗性スズメノテッポウ に対する効果の確認
2.ANK-553 乳 ベンディメタリン 30% [BASF アグロ]	実 継	一年生雑草	土壌	播種後～小麦 2 葉期 播種後出芽前 雑草発生前 小麦 1～2 葉 期、スズメノテッポ ウ 1 葉期まで	300～500ml (出芽直前 ～出芽前は 300～ 400ml) 散布水量 70～100L	全土壌(砂 土を除く)	北海道 東北以南	・小麦 1～2 葉期処理では、 スズメノカタビラに効果が劣る ・カスノコグサ、ネズミムギ、 SU 抵抗性スズメノテッポウ に対する効果の確認 ・東北以南での出芽直 前～出芽摘期での効 果、葉害の確認
3. BCH-046 フロア ル イソプロトロン 45% [ハイエル クロップ サイ エンス]	実 継	一年生イネ科 雑草、ハコベ	茎 葉 兼 土 壌	播種後～ 小麦 3 葉期	200～ 250mL 散 布 水 量 100L	全土壌 (砂土を除く)	北海道	・東北以南での効果、 葉害の確認
4. BCH-047 フロア ルイソプロトロン 46.3% シフルフェニカン 3.9%[ハイエル クロップ サイエンス]	実 継	一年生雑草	茎 葉 兼 土 壌	播種後～小麦 3 葉期	150～ 250mL 散布 水量 100L	全土壌(砂 土を除く)	北海道	・一過性の白斑を生じること がある ・東北以南での効果、 葉害の確認

A. 除草剤 (1)小麦

注)アンダーラインは拡大された部分を示す。また、薬剤名のアンダーラインは、初めて使用基準が作成されたことを示す。

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	判 定	使用規準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
5.DPX-16 顆粒水和 チフェンスルフロニメチル 75% [デュボン]	実・継 (従来どおり)	一年生広葉 雑草、スズメノ テツボウ	土壌また は茎葉 兼土壌	播種後～ 節間伸長前 スズメノテツボウ 5 葉期まで	5～10g 散布水量 50～100L (播種後～ 小麦 2 葉期 処理は水量 100L、10g の小麦 3 葉 期以降の処 理は水量 25～100L)	全土壌 (砂土を除く)	東北～四 国	・単用での茎葉処理の場合 は 7.5～10g/10a での使用が 望ましい ・少量散布(25L/10a)の場 合は専用ノズルを使用する。 ・播種後処理の場合はヤエムク ラに効果が劣る。 ・処理後散布器具をよく洗浄 する。	・散布水量の拡大 ・春期処理でのキンギン に対する効果の確認 (北海道) ・東北以南での節間伸 長期以降の効果、葉害 の確認
				小麦 1 葉～ 節間伸長前 スズメノテツボウ 5 葉期まで	7.5～10g 散布水量 100L		九州		
				カズノコグサ	茎葉		小麦 1 葉～ 節間伸長前 カズノコグサ 1～3 葉期		
6.HSW-062 フロアブ ル インダノファン 10.7%、 シフルフェニカン 4.3% (W/V) [北海三共]	—								
7.MCP-Na 液 MCPA ナトリウム塩 19.5% [2,4D 協議会]	実・継 (従来どおり)	広葉雑草	茎葉	幼穂形成期 但し収穫 45 日 前まで	200～300g 散布水量 70～100L	全土壌	北海道、東 北、北陸		・北海道での少量散 布について効果、葉害 の確認
8.MK-243 フロアブル インダノファン 10% [日本農業]	実・継	一年生雑草	土壌	播種後～小麦 2 葉期(イネ科 雑草 1 葉期ま で)	300～ 500mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	東北以南		・北海道での効果、葉 害の確認 ・東北以南での年次変 動の確認 ・SU 抵抗性スズメノテツボ ウ、カラスミギ、ネズミミギに 対する効果の確認 ・タネツケバナに対する効 果の確認
		カズノコグサ		播種後出芽 前、雑草発生 前					
9. NC-613 乳 エスプロカルブ 60% シフルフェニカン 1.5% [日産化学]	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽 前、雑草発生 前	300～ 400mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	北海道	・一過性の白斑を生じること がある	・北海道での出芽直前 ～出芽揃期の効果、葉 害の確認 ・北海道でのイヌガツレ

A. 除草剤 (1) 小麦

注) アンダーラインは拡大された部分を示す。また、薬剤名のアンダーラインは、初めて使用基準が作成されたことを示す。

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	判定	使用基準						継続の内容			
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意		
					300～ 500mL 散布水量 100L		東北以南				
10. <u>NC-622 液</u> グリホサートカリウム塩 48% [日産化学]	実・ 継	一年生雑草	茎葉	耕起前 雑草生育期 (草丈 30cm 以下)	200～ 500mL 散布水量 25～100L	全土壌	東北以南	・少量散布の場合は少量 散布用ノズルを使用する ・周辺作物に飛散しないよう に注意する	・圃場周縁処理での効果、 被害の確認 ・多年生イネ科雑草に 対する効果の確認(北 海道) ・播種直前処理での薬 害について		
				播種後出芽前 雑草生育期 (草丈 30cm 以下)							
11. <u>RSH-44 乳</u> ジフルフェニカン 3.7%、 トリフルラリン 37.0% [バイエル クロップ サイ エンス]	実・ 継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	150～ 250mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	北海道	・薬に白斑を生じる場合があ る。	・低薬量での効果の確 認 ・処理時期、地域の拡 大 ・カズノコグサ、ネズミギに 対する効果の確認		
					200～ 250mL 散布水量 100L		東北以南				
					茎葉兼 土壌		小麦 1～3 葉 期			100～ 150mL 散布水量 100L	北海道
							小麦 2～3 葉 期			200～ 250mL 散布水量 100L	東北、北陸
			12. <u>RSH-44(L)粉粒</u> ジフルフェニカン 0.15% トリフルラリン 2% [バイエル クロップ サイ エンス]	実・ 継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	3～5kg	全土壌 (砂土を除く)	北海道	・一過性の白斑を生じること がある。
4～6kg	東北以南										
小麦 1～2 葉 期	4～5kg										

A. 除草剤 (1) 小麦

注)アンダーラインは拡大された部分を示す。また、薬剤名のアンダーラインは、初めて使用基準が作成されたことを示す。

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	判定	使用基準						継続の内容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
13.SYJ-100 乳 フロスルホカルブ 78.4% [シンジエンタ ジャパン]	実・継 (従来どおり)	一年生雑草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前 小麦 1～2 葉期 播種後～小麦 2 葉期	400～ 500mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	北海道 東北以南	・葉斑、黄化、縮葉などの症状がみられる場合がある。	・SU 抵抗性スズメノテッポウ、カスノコグサ、カラスミギ、ネズミムギに対する効果の確認
14. SYJ-171 液 ハラコート 12.4% [シンジエンタ ジャパン]	実・継	一年生雑草	茎葉	耕起または播種 3 日以前 雑草生育期 (草丈 30cm 以下) 播種後出芽前 雑草生育期 (草丈 30cm 以下)	500～ 1000mL 散布水量 100～150L	全土壌	東北以南	・作物に飛散しないように散布する	・播種直前処理での薬害について
		雑草全般		小麦生育期 雑草生育期 (草丈 30cm 以下) (圃場周縁)	1000～ 2000mL 散布水量 100～150L				
15. WOC-01 液 グリホサートイソプロピルアミン塩 41% [三共アグロ]	実・継	多年生イネ科 雑草	茎葉	耕起前、雑草生育期(草丈 30cm 以下)	250～ 500mL 散布水量 25～100L	全土壌	北海道	・少量散布の場合は専用ノズルを使用する ・周辺作物に飛散しないように注意する	・播種直前処理での薬害について
		一年生雑草			250～ 500mL 散布水量 100L		東北以南		
				播種後出芽前、雑草生育期(草丈 30cm 以下)	250～ 500mL 散布水量 25～100L				

A. 除草剤 (1)小麦

注)アンダーラインは拡大された部分を示す。また、薬剤名のアンダーラインは、初めて使用基準が作成されたことを示す。

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	判定	使用規準						継続の内容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
16. ZK-122 液 グリホサートカリウム塩 43% [シンジエンタ ジャパン]	実 継	多年生イネ科 雑草	茎葉	耕起 3 日以前 雑草生育期 (草丈 30cm 以下)	500～ 750mL 散布水量 25～100L	全土壌	北海道	・少量散布の場合は専用ノ ズルを使用する ・作物に飛散しないように注 意する	・播種直前処理での薬 害について
		一年生雑草		耕起または播 種前、雑草生 育期(草丈 30cm 以下)	250～ 500mL 散布水量 25～50L		東北以南		
				小麦生育期 雑草生育期 (草丈 30cm 以下) (圃場周縁)					
17. トリフルラン乳 トリフルラン 44.5% [ダウ・ケミカル 日本]	実 継	一年生雑草 (ツユクサ、カヤツ リグサ、キク、アブ ラナ科雑草を 除く)	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	200～ 300mL 散布水量 100L	全土壌(砂 土を除く)	(全域)	・中耕培土後処理は、播種 後の土壌処理剤との体系で 使用する。	・北海道での小麦出芽 直前～出芽揃の効果、 薬害の確認 ・カズノコグサに対する効 果の変動要因の確認
		一年生イネ科 雑草(スズメノ カタビラを含 む)		小麦 1～3 葉 期(イネ科雑草 1 葉期まで)			北海道		
		一年生イネ科 雑草、 カズノコグサ		小麦生育期 中耕培土後 雑草発生前			東北以南		
18. トリフルラン粒 トリフルラン 2.5% [ダウ・ケミカル 日本]	実 継	一年生雑草 (ツユクサ、カヤツ リグサ、キク、アブ ラナ科雑草を 除く)	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	4～5kg	全土壌(砂 土を除く)	(全域)	・中耕培土後処理は、播種 後の土壌処理剤との体系で 使用する。	・北海道での小麦 1～3 葉期(イネ科雑草 1 葉期 まで)の効果、薬害の 確認 ・カズノコグサに対する効 果の変動要因の確認
		一年生イネ科 雑草、 カズノコグサ		小麦生育期 中耕培土後 雑草発生前			東北以南		

A. 除草剤 (2) 大麦

注)アンダーラインは拡大された部分を示す。また、薬剤名のアンダーラインは、初めて使用基準が作成されたことを示す。

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	判定	使用規準						継続の内容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
1. ANK-553 細粒 ベンディメタリン 2% [BASF アグロ]	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	5～6kg	全土壌(砂 土を除く)	東北以南	—	・SU 抵抗性スズメノテッポウへの効果の確認
2. ANK-553 乳 ベンディメタリン 30% [BASF アグロ]	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	300～ 500mL 散布水量 70～100L	全土壌(砂 土を除く)	全域	—	・SU 抵抗性スズメノテッポウへの効果の確認
3. MK-243 フロアフル インタノファン 10% [日本農薬]	実・継	一年生雑草	土壌	播種後～大麦 2 葉期(イネ科 雑草 1 葉期まで)	300～500mi 散布水量 100L	全土壌(砂 土を除く)	東北以南		・年次変動の確認 ・SU 抵抗性スズメノテッポウへの効果の確認 ・タネツケバナに対する効果の確認
4. NC-613 乳 エスプロカルブ 60%、シフルフェニカン 1.5% [日産化学工業]	継								・効果、葉害の確認
5. NC-622 液 グリホサートカリウム塩 48% [日産化学工業]	実・継	一年生雑草	茎葉	耕起前 雑草生育期 (草丈 30cm 以下) 播種後出芽前 雑草生育期 (草丈 30cm 以下)	200～ 500mL 散布水量 25～100L	全土壌	全域	・少量散布の場合は少量散布用ノズルを使用する ・周辺作物に飛散しないように注意する	・播種直前処理での葉害について ・圃場周縁処理での効果、葉害の確認
6. SYJ-171 液 パラコート 12.4% [シンジェンタ ジャパン]	実・継	一年生雑草	茎葉	耕起または播種 3 日以前 雑草生育期 (草丈 30cm 以下) 播種後出芽前 雑草生育期 (草丈 30cm 以下)	500～ 1000mL 散布水量 100～150L	全土壌	全域	・作物に飛散しないように注意する	・播種直前処理での葉害について
		雑草全般		大麦生育期 雑草生育期 (草丈 30cm 以下) (圃場周縁)	1000～ 2000mL 散布水量 100～150L				

A. 除草剤 (2) 大麦

注) アンダーラインは拡大された部分を示す。また、薬剤名のアンダーラインは、初めて使用基準が作成されたことを示す。

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	判定	使用基準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
7. ZK-122 液 グリホサートカリウム塩 43% [シンジェンタ ジャパン]	実・ 継	一年生雑草	茎葉	耕起または播 種前 雑草生育期 (草丈 30cm 以 下) 大麦生育期 雑草生育期 (草丈 30cm 以 下) (圃場周縁)	250～ 500mL 散布水量 25～50L	全土壌	全域	・少量散布の場合は専用ノ ズルを使用する ・作物に飛散しないように注 意する	・播種直前処理での薬 害について
8. トリフルリン乳 トリフルリン 44.5% [タウ・ケミカル 日本]	実・ 継	一年生雑草 (ツクサ、カヤツ リグサ、キク、アブ ラナ科雑草を除く)	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	200～ 300mL 散布水量 100L	全土壌(砂 土を除く)	(全域)	・中耕培土後処理は播種後 の土壌処理剤との体系で使 用する	・カズノコグサに対する効 果の変動要因の確認 (中耕培土後処理)
		一年生イネ科 雑草、 カズノコグサ		大麦生育期 中耕培土後 雑草発生前			東北以南		
9. トリフルリン粒 トリフルリン 2.5% [タウ・ケミカル 日本]	実・ 継	一年生雑草 (ツクサ、カヤツ リグサ、キク、アブ ラナ科雑草を除く)	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	4～5kg	全土壌(砂 土を除く)	(全域)	・中耕培土後処理は播種後 の土壌処理剤との体系で使 用する	・カズノコグサに対する効 果の変動要因の確認 (中耕培土後処理)
		一年生イネ科 雑草、 カズノコグサ		大麦生育期 中耕培土後 雑草発生前			東北以南		

A. 除草剤 (3) いぐさ

注) アンダーラインは拡大された部分を示す。また、薬剤名のアンダーラインは、初めて使用基準が作成されたことを示す。

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	判定	使用基準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1. G-315B 乳 オキサシアゾン 8% ブタクロール 12% [日産化学工業]	実・ 継	一年生雑草	土壌(湛 水)	植付後～スズメ ノテボウ 3 葉期 またはノビエ 1.5 葉期	300～500ml	壤土～埴 土	全域	1) 他剤との組合せで使用す る	・年次変動の確認
2. SL-496 粒 ピラジキソフェン 6% プレチラクロール 1.5% [石原産業]	実・ 継	一年生雑草 全般	土壌(湛 水)	植付後～スズメ ノテボウ 3 葉期 またはノビエ 1.5 葉期	3kg	壤土～埴 土	全域	1) 他剤との組合せで使用す る	・苗床処理での年次変 動の確認

A. 除草剤 (4) 水稻刈跡

注)アンダーラインは拡大された部分を示す。また、薬剤名のアンダーラインは、初めて使用基準が作成されたことを示す。

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	判 定	使用基準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1. NC-622 液 グリホサートナトリウム塩 48% [日産化学工業]	実 継	一年生雑草	茎葉	水稻刈取後 雑草生育期 (草丈 30cm 以下)	200～ 500mL 散布水量 25～100L	全土壌	全域	・少量散布の場合は専用ノズルを使用する	・ミスガヤツリ以外の多年生雑草に対する処理時期と、翌年の発生量低減効果の確認
		多年生雑草			500～ 1000mL 散布水量 25～100L				
		ミスガヤツリ (翌年発生低減効果)							
2. NHS-50 粒 塩素酸ナトリウム 50% [エス・ディー・エス]	実 継	一年生雑草全般、多年生イネ科雑草、マツハイ	土壌	水稻刈取後 雑草生育期	20～25kg	全土壌	東北以南	—	・多年生イネ科雑草に対する薬量と効果の確認 ・多年生広葉雑草に対する、当年の効果、および翌年の発生量低減効果の確認
3. SYJ-171 液 ハラコート 12.4% [シンジェンタ シヤパン]	実 継	一年生雑草	茎葉	水稻刈取後 雑草生育期 (草丈 30cm 以下)	500～ 1000mL 散布水量 100～150L	全土壌	東北以南		・ミスガヤツリ以外の多年生雑草に対する処理時期と、翌年の発生量低減効果の確認
		多年生雑草			1000～ 2000mL 散布水量 100～150L				
		ミスガヤツリ (翌年発生低減効果)							

B. 生育調節剤

注)アンダーラインは拡大された部分を示す。また、薬剤名のアンダーラインは、初めて使用基準が作成されたことを示す。

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	判 定	使用基準							継続の内容
		対象作物 使用目的	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1. ALP-05 液 D-Carvone 95% [アリストライフサイエンス]	継								・効果の確認
2. HSE-061 液 1,4-ジメチルナフレン A% [北海三共]	—								

B. 生育調節剤

注)アンダーラインは拡大された部分を示す。また、薬剤名のアンダーラインは、初めて使用基準が作成されたことを示す。

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	判定	使用基準							継続の内容
		対象作物 使用目的	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
3. KUH-833F(M)プロ アフル プロヘキサジオンカルシ ウム塩 5% [カミアイ化学工業]	実 継	・小麦対象 ・節間伸長 抑制による 倒伏軽減	茎葉	止葉期～ 出穂前 5 日	150mL 散布水量 100L	全土壌	全域	・止葉期とは止葉が確認でき た日を目安とする	・北海道での年次変動 の確認
4. RIC-1 液 海藻ホモジネート	継								
5. エテホン液 エテホン 10% [日産化学工業]	実 継	・小麦対象 ・節間伸長 抑制による 倒伏軽減	茎葉	止葉期～ 出穂始期	200ppm300 ～500 倍 散布水量 100L	全土壌	北海道		・300 倍(散布水量 100L)、75 倍(散布水 量 25L)での年次変動 の確認
					75 倍～125 倍 散布水量 25L				
					出穂始期 200～ 300ppm 300～500 倍 散布水量 50～100L		東北以南		
				穂ばらみ期～ 出穂始期	200ppm 500 倍 散布水量 100L		寒冷地、温 暖地東北 ～四国		・処理時期、散布水量 と効果の検討



▲小麦



▲大麦